

総社町向畠遺跡No.1

宅地造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2015.7

前橋市教育委員会
有限会社三光企画
有限会社毛野考古学研究所

総社町向畠遺跡No.1

宅地造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2015.7

前橋市教育委員会
有限会社三光企画
有限会社毛野考古学研究所

例　　言

1. 本書は、宅地造成工事に伴い実施した、総社町向畠遺跡の発掘調査報告書である。
2. 調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は同研究所員　土井道昭である。
3. 発掘調査から整理作業を経て本書刊行に至る経費は、有限会社三光企画に負担して頂いた。
4. 発掘調査の要項は次のとおりである。

調　　査　　場　　所　　群馬県前橋市総社町植野 594, 597
遺　　跡　　コ　　ー　ド　　26 A 199
発　　掘　　調　　査　　期　　間　　平成 27 年 3 月 9 日～平成 27 年 3 月 27 日
整　　理　　・　報　　告　　書　　作　　成　　期　　間　　平成 27 年 4 月 1 日～平成 27 年 7 月 31 日
発　　掘　　・　整　　理　　・　擔　　当　　者　　土井道昭（有限会社毛野考古学研究所）

5. 本遺跡に関する遺構測量に関しては、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所）が担当した。
6. 本書の編集は土井（有限会社毛野考古学研究所）が行った。原稿執筆は I を藤坂和延（前橋市教育委員会）、他を土井が担当した。
7. 発掘調査・整理作業に関わった方々は次のとおりである。
【発掘調査】 岡村美弥子・川島隆好・鈴木　正・高橋奈緒・勅使川原幸江・中島勝由・永井述史・萩原秀子・橋元裕児・古郡孝一・森山恵子・森山孝男
【整理作業】 池内麻美・合田幸子・瀬尾則子・高橋奈緒・武士久美子・半澤利江
8. 発掘調査で出土した遺物及び、図面等の資料は、前橋市教育委員会文化財保護課で保管されている。

凡　　例

1. 遺構図の縮尺は、平面図及び土層断面図を 1/60 縮尺で表現することを基本として掲載し、挿図中にはスケールを付してある。また、図中の北方位は座標北であり、座標値は日本測地系に基づいている。
2. 遺物実測図の縮尺は、1 / 1 ～ 1 / 4 縮尺の範囲で掲載し、図中にスケールを付してある。遺物写真は遺物実測図とはほぼ同縮尺である。
3. 遺物実測図に使用している遺物断面のトーンは次の意味を表す。
黒塗り：須恵器、網掛け：灰釉陶器
4. 遺構及び遺構施設の略称は、次のとおりである。
H : 壊穴建物跡　W : 溝跡　D : 土坑　P : ピット　T : 壊穴状遺構
5. 遺構及び土器の色調観察は『新版　標準土色帖』（農林水産技術会議事務局　財團法人日本色彩研究所監修 2006）に従っている。

目 次

例言・凡例

目次・図版目次・表目次・写真図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 遺跡の位置と環境	2
1 地理的環境	2
2 歴史的環境	2
III 調査の方法と経過	3
1 調査の方法	3
2 調査の経過	3
IV 標準堆積土層	4
V 遺構と遺物	4
1 遺跡の概要	4
2 坪穴建物跡	7
3 掘立柱建物跡	8
4 土坑	9
5 坪穴状遺構	13
6 溝	13
7 ピット	17
8 焚土	17
9 遺構外出土遺物	17
VI まとめ	18

写真図版

抄録

奥付

図版目次

Fig. 1 調査区域図	1	Fig. 8 B-1号坪立柱建物跡・B-2号坪立柱建物跡	9	Fig. 15 W-2号溝（1）	14
Fig. 2 総社町向畠遺跡No.1位置図	2	Fig. 9 土坑出土遺物	10	Fig. 16 W-2号溝（2）	15
Fig. 3 遺跡分布図	3	Fig. 10 土坑（1）	11	Fig. 17 W-2号溝出土遺物	16
Fig. 4 標準堆積土層	4	Fig. 11 土坑（2）	12	Fig. 18 1号焼土範囲	17
Fig. 5 全体図	6	Fig. 12 T-1号坪穴状遺構	13	Fig. 19 遺構外出土遺物	17
Fig. 6 H-1号坪穴建物跡	7	Fig. 13 T-1号坪穴状遺構出土遺物	13		
Fig. 7 H-1号坪穴建物跡出土遺物	8	Fig. 14 W-1号溝・W-2号溝	14		

表目次

Tab. 1 坪穴建物跡一覧表	4	Tab. 5 坪穴状遺構一覧表	5	Tab. 9 土坑出土遺物観察表	10
Tab. 2 掘立柱建物跡一覧表	4	Tab. 6 溝一覧表	5	Tab. 10 T-1号坪穴状遺構出土遺物観察表	13
Tab. 3 土坑一覧表（1）	4	Tab. 7 ピット一覧表	5	Tab. 11 W-2号溝出土遺物観察表	16
Tab. 4 土坑一覧表（2）	5	Tab. 8 H-1号坪穴建物跡出土遺物観察表	7	Tab. 12 遺構外出土遺物観察表	17

写真図版目次

P.L. 1 調査区全景
調査区全景

P.L. 2 H-1号坪穴建物跡 遺物出土状態
T-1号坪穴状遺構 完掘状態
D-6号土坑 完掘状態

P.L. 2 D-10号土坑 完掘状態
D-12号土坑 セクション

W-2号溝 遺物出土状態
W-3号溝 完掘状態
調査区北西端 標準堆積土層

P.L. 3 出土遺物
P.L. 4 出土遺物

I 調査に至る経緯

平成 26 年 11 月 21 日、開発人である有限会社三光企画より当該地での宅地造成計画に伴う埋蔵文化財に関する問い合わせがあり、協議を開始するとともに、「埋蔵文化財試掘調査依頼書」が提出された。同年 12 月 15 ~ 17 日、文化財保護課は試掘・確認調査を実施した。その結果、古墳時代の住居跡・土坑等を確認し、埋蔵文化財の保護について具体的な協議を開始した。12 月 24 日、開発人からの文化財保護法第 93 条第 1 項の届出により工事の概要が提示され、計画に即しての埋蔵文化財の取扱いを検討。発掘調査を実施し記録保存の措置を執ることで開発人の合意を得た。教育委員会では既に他の遺跡において直営による発掘調査を実施しており、本遺跡の直営による調査の実施が困難であるため、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、発掘調査を実施することになった。平成 27 年 3 月 3 日付けで開発人と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所、教育委員会との間で三社協定が締結され、同年 3 月 9 日から現地調査が開始された。

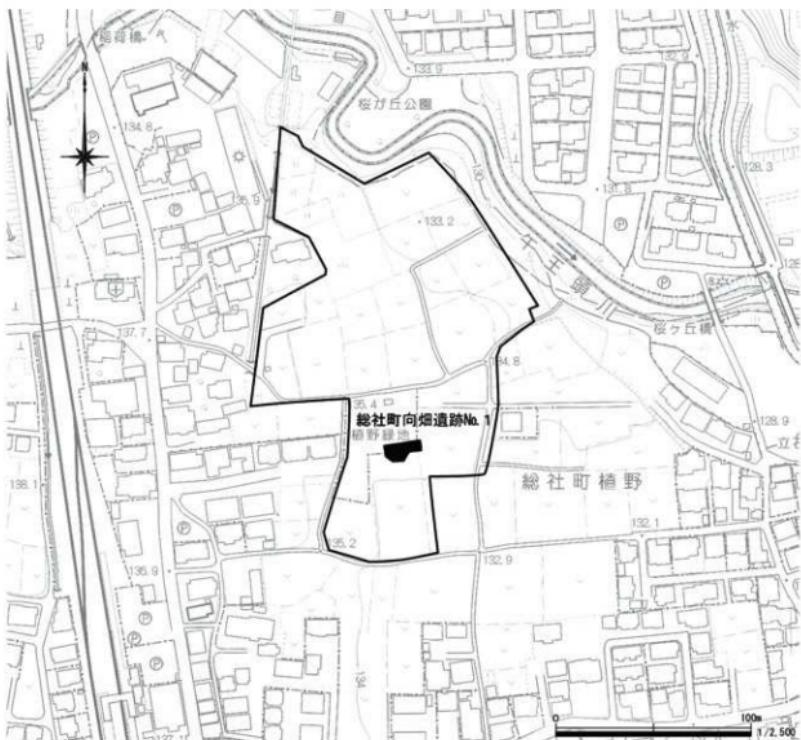


Fig. 1 調査区域図（前橋市役所発行『前橋市現形図 42- 1 • 42- 3』1/2,500）

II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡は前橋市域の北西部、JR上越線・群馬総社駅北東約200mの総社町植野に所在する。地形的には利根川右岸域の前橋台地上に立地する。前橋台地は、浅間山噴火に伴う山体崩壊（約2万年前）による「前橋泥流」が、利根川によって赤城山・榛名山の山麓の間から関東平野に流出した所に堆積して形成された緩傾斜地の扇状地性台地である。市域の西側は利根川が貫流しており、微高地や後背湿地を形成している。台地上では榛名山麓を源とする小河川が利根川に向けて北西～南東方向に下り、台地を開削している。本遺跡は牛王頭川と八幡川に挟まれた緩傾斜の台地上に立地するが、牛王頭川は総社町の元景寺北方で利根川に合流し、八幡川は総社町大字屋敷付近で天狗岩用水と合流し、滻川と名称を変えて佐波郡玉村町川井で鳥川と合流する。

2 歴史的環境

本遺跡周辺を概観すると、縄文時代は高井桃ノ木遺跡【20】で前期の包含層が、中期～後期の住居跡が新田入口遺跡【22】などで確認されている。弥生時代は後期の住居跡が見柳東遺跡【23】・桜ヶ丘遺跡【4】などで検出されている。古墳時代は中期～後期になると首長層の居館跡が確認された三ッ寺1遺跡を中心として総社地域においても遺跡数が増大する。畠・水田等の生産域は八幡川・牛池川・染谷川に沿って形成された後背湿地に集中している。古墳は数多く築造されており、利根川右岸域において5世紀後半に達見山古墳【10】が築造されたのをはじめ、総社二子山古墳【8】・愛宕山古墳【9】・宝塔山古墳【12】・蛇穴山古墳【13】などの大型古墳が築造されており、これらは総社古墳群と呼称される。奈良・平安時代は近接する元総社地区において、上野国府・国分僧寺・国分尼寺が置かれ、古代上野国の中枢を担う地域へと編成される。一方で、一般的な集落は総社桜ヶ丘遺跡【3】・中島遺跡【19】・若宮遺跡【5】などの国府推定域外に多く分布する傾向が見られるが、これに伴う生産遺跡は少なく、元総社北川遺跡や日高遺跡から散見される。中世では室町時代に入ると、上野国府の地割を利用した蒼海城が築城され、上野国守護代の長尾氏がこれを改修し本拠地とした。この他、本遺跡周辺の平野部でも屋敷に堀を巡らせた環濠屋敷などが認められる。江戸時代になると、慶長初期に河岸段丘を利用して「総社城」【25】が築城される。城主である秋元長朝は、領内の経済基盤を安定させるため、慶長9(1604)年に天狗岩用水を開削した。本遺跡の東側を南流するこの用水は、現在でもなお、農業用水として利用されている。

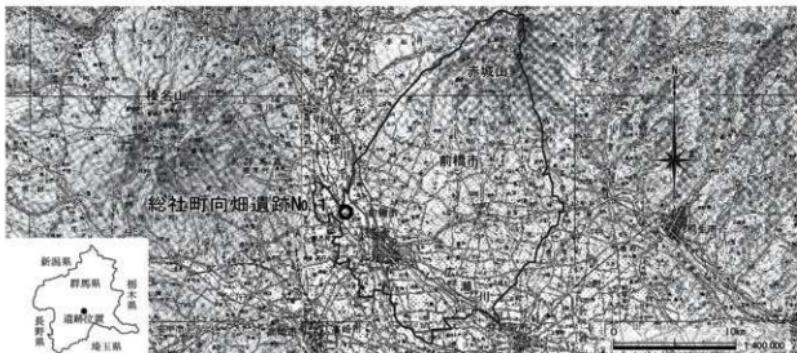
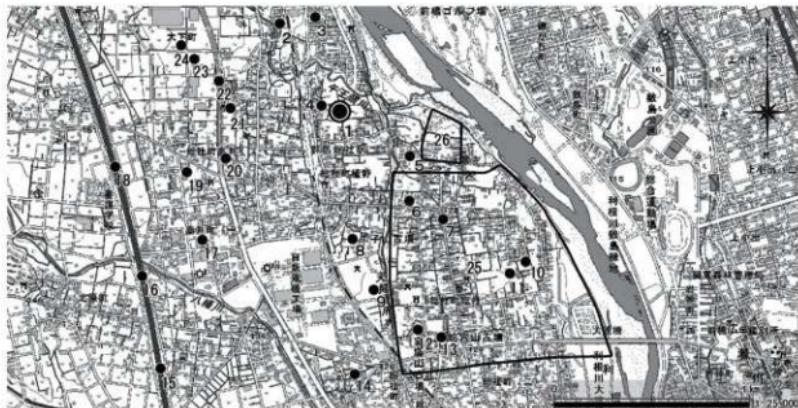


Fig. 2 総社町向畑遺跡No.1位置図 (国土地理院発行『宇都宮』・『長野』1/200,000を50%縮小)



1. 銀社町向畠道跡 2. 西久保道跡 3. 銀社桜ヶ丘道跡 4. 桜ヶ丘道跡 5. 若宮道跡 6. 稲荷山古墳 7. 大小路山古墳 8. 銀社二子山古墳 9. 愛宕山古墳 10. 遠見山古墳 11. 城川道跡 12. 宝塔山古墳 13. 蟒穴山古墳 14. 村東道跡 15. 国分境Ⅱ道跡 16. 北原道跡 17. 林木道跡 18. 下東西道跡 19. 中島道跡 20. 高井桃ノ木道跡 21. 銀社植野北開土道跡 22. 新田入口道跡 23. 見柳東道跡 24. 見柳東Ⅱ道跡 25. 銀社城跡 26. 謙山城跡

Fig. 3 遺跡分布図 (国土地理院発行『前橋』1/25,000)

III 調査の方法と経過

1 調査の方法

委託調査箇所は宅地造成に伴う用地で、開発集落対象地 16,000 m²のうち、調査面積は 150 m²である。前橋市教育委員会による試掘成果や周辺遺跡の状況から、調査対象地内からは古墳～奈良・平安時代の集落跡が想定されていた。

表土掘削は試掘調査の成果を参考に、0.45 m²パックホーを用いて基本層序第IV層まで掘削をし、近現代における擾乱を受けている調査区南側の一部分については第VII層まで掘削をした。表土掘削後は人力による遺構の確認と検出を行った。遺構の掘削にあたっては、土層観察用のベルト設定および半截によって各遺構の埋没状況や構築状態の把握に努め、測量および写真撮影による記録保存は適宜実施した。写真は 35 mm モノクロフィルム、35 mm リバーサルフィルム、デジタルカメラで撮影し、全体の遺構検出終了後にはマルチコプターにより空中写真撮影を行った。

2 調査の経過

現地での発掘調査は平成 27 年 3 月 9 日～3 月 27 日まで行った。

3 月 9 日：重機による表土掘削。発掘器材の搬入。発掘作業員を動員。10 日：遺構精査確認作業。11 日：遺構調査（～24 日）。13 日：GPS 観測による基準点設置。25 日：調査区航空写真撮影および遺構測量（～26 日）。前橋市教育委員会による調査終了確認。27 日：器材撤収を行い、現地における発掘調査終了。

整理・報告書作成業務については、平成 27 年 4 月 1 日から 7 月 31 日にかけて有限会社毛野考古学研究所において実施した。

IV 標準堆積土層

調査区北西端および北東端にトレチを設け標準堆積土層を観察したところ、I～IX層が確認された。遺構確認面については、試掘調査結果を参考にIV層上面とした。遺構確認面の標高は約134 mを測り、南東方向へ緩やかに傾斜している。今回の調査ではIX層の浅黄褐色砂層まで確認しており、遺跡地周辺の調査事例などから總社砂層と考えられる。なお、同砂層はI～2の底面（遺構確認面から約2 m下面）からも確認されている。總社砂層の上位にはVI～VII層が認められ、粘性の強いシルトや粘質土がそれぞれ堆積しており、牛王頭川や八幡川など小河川の氾濫などによる水成堆積層と考えられる。IV・V層には浅間C輕石（3世紀末葉降下）、III層にはHr-FA輕石（6世紀初頭降下）、II層には浅間B輕石（1108年降下）、I層には浅間A輕石がそれぞれ混入している。これらの層位については、人為的な耕作土と考えられる。

各土層の観察は以下の通りである。



Fig. 4 標準堆積土層

V 遺構と遺物

1. 遺跡の概要

今回の調査では堅穴建物跡1軒、掘立柱建物跡2軒、土坑14基、堅穴状遺構1基、溝3条、ピット44基（掘立柱建物跡の柱穴含む）、焼土範囲1箇所が検出された。各遺構の計測値は一覧表に記載している。

Tab. 1 堅穴建物跡一覧表

遺構名	平面形態	規模 (m)			主軸	貯蔵穴 (m)			出土遺物	備考
		長軸	短軸	深さ		全长	幅	長軸×短軸		
H-1	方形基調 (2.52) × (1.8)	0.4	N-63° - E	(1.20)	(0.80)	0.84 × 0.63	0.65		土師器（壺・甕）、須恵器（壺・壺）、陶器（碗）	6世紀前半

Tab. 2 掘立柱建物跡一覧表

遺構名	規模 (m)			主軸	出土遺物	備考
	長軸	短軸	柱心間			
B-1	3.77	3.59	3.55 ~ 3.68	N-60° - E	-	1間×1間、P-04・05・06(07)
B-2	3.85	3.81	3.52 ~ 3.57	N-60° - E	-	1間×1間、P-03・12・18・19

Tab. 3 土坑一覧表（1）

遺構名	規模 (m)			平面形態	断面形態	出土遺物		埋没土 / 備考
	長軸	短軸	深さ					
D-1	1.50	1.09	0.13	（長方形）	箱型	土師器（壺・甕）、須恵器（壺・壺）、陶器（碗）	A s - A 混土。	
D-2	1.35	0.85	0.41	長方形	箱型	調文土器（深鉢）、土師器（壺・甕）、須恵器（壺・甕）、陶器（壺・埴輪）	A s - A 混土。	
D-3	1.62	1.10	0.27	不整形	不整形	-	-	A s - A 混土。
D-4	0.62	0.59	0.4	円形	U字状	土師器（甕）	A s - B 混土。	

Tab. 4 土坑一覧表(2)

遺構名	規格(m)		平面形態	断面形態	出土遺物	埋没土/備考
	長軸×短軸	深さ				
D-5	1.08 × 0.70	0.33	長方形	箱型	土師器(环・甕)	A s - A混土。
D-6	2.36 × 0.62	0.45	長方形	箱型	土師器(甕)	A s - B混土。
D-7	2.59 × 0.75	0.26	長方形	箱型	土師器(环・甕)、須恵器(甕・壺)	A s - B混土。
D-8	1.57 × 1.30	0.08	不整形	壺状	土師器(环・甕)	A s - C・H r - F A混土。
D-9	(0.83) × (0.81)	0.71	楕円形基調	逆台形	土師器(环・甕)	A s - C混土。
D-10	2.16 × 1.44	0.29	長方形	逆台形	土師器(环・甕)	A s - C・H r - F A混土。
D-11	(0.85) × (0.43)	0.76	円形基調	箱型	土師器(环・甕)	A s - B混土。I-1から変更。
D-12	2.67 × 2.32	(2.06)	円形基調	壺状	土師器(环・甕)、青磁碗	A s - B混土。I-2から変更。
D-13	0.81 × (0.15)	0.26	(不整形)	不整形	-	A s - B混土。
D-14	(0.86) × (0.33)	0.42	(楕円形基調)	壺状	-	A s - B混土。

Tab. 5 壁穴状遺構一覧表

遺構名	規格(m)		平面形態	断面形態	出土遺物	埋没土/備考
	長軸×短軸	深さ				
T-1	1.50 × 1.09	0.13	(長方形)	(長方形)	弥生土器(甕)、土師器(环・高环・甕)、須恵器(环・甕・壺)	

Tab. 6 溝一覧表

遺構名	規格(m)		断面形態	出土遺物	備考
	上端幅	下端幅			
W-1	0.85 ~ 0.98	0.72 ~ 0.80	0.08	U字状	土師器(环・甕)、須恵器(环・甕・壺)、陶器(碗)
W-2a	1.07 ~ 1.30	0.21 ~ 0.24	1.42	箱型研	弥生土器(甕)、土師器(环・高环・甕・壺)、須恵器(环・甕・壺)、灰釉陶器(碗)、土堆、瓦石
W-2b	2.32 ~ 4.28	0.49 ~ 0.70	1.23	U字状	弥生土器(甕)、土師器(环・高环・甕・壺)、須恵器(甕・壺)
W-3	0.72 ~ 0.92	0.59 ~ 0.83	0.10	逆台形	-

Tab. 7 ピット一覧表

遺構名	規格(m)		平面形態	出土遺物	埋没土/備考	遺構名	規格(m)		平面形態	出土遺物	埋没土/備考
	長軸×短軸	深さ					長軸×短軸	深さ			
P-1	0.24 × 0.23	0.26	方形	-	A s - B混土。柱痕あり。	P-20	0.40 × 0.29	0.35	長方形	-	A s - B混土。
P-2	0.26 × 0.25	0.24	不整形	-	A s - C混土。柱痕あり。	P-21	0.41 × 0.35	0.19	長方形	-	A s - B混土。
P-3	0.37 × 0.30	0.52	不整形	-	A s - B・H r - FA混土。	P-22	0.31 × 0.39	0.15	円形	-	A s - B混土。
P-4	0.42 × 0.38	0.34	楕円形	-	A s - B・H r - FA混土。	P-23	(0.18) × 0.19	0.12	楕円形基調-	-	A s - B混土。
P-5	0.47 × 0.39	0.54	楕円形	-	A s - B・H r - FA混土。	P-24	0.28 × 0.25	0.24	楕円形	-	A s - B混土。
P-6	0.42 × 0.31	0.27	楕円形	-	A s - C混土。	P-25	0.27 × 0.24	0.26	不整形	-	A s - B混土。
P-7	(0.42) × (0.18)	-	不整形	-	A s - C混土。	P-26	0.30 × 0.28	0.15	円形	-	A s - B混土。
P-8	0.25 × 0.23	0.48	不整形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-27	0.30 × 0.30	0.44	円形	-	A s - B混土。
P-9	0.19 × 0.16	0.25	不整形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-28	0.34 × 0.28	0.19	不整形	-	A s - B混土。
P-10	0.26 × 0.18	0.23	楕円形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-29	0.30 × 0.27	0.18	楕円形	-	A s - B混土。
P-11	0.29 × 0.26	0.57	不整形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-30	0.20 × 0.18	0.22	不整形	-	A s - B混土。
P-12	0.31 × 0.28	0.25	不整形	-	A s - C混土。	P-31	0.22 × 0.20	0.13	不整形	-	A s - B混土。
P-13	0.33 × 0.29	0.20	不整形	-	A s - C混土。	P-32	0.29 × 0.27	0.13	円形	-	A s - B混土。
P-14	0.31 × 0.25	0.19	楕円形	-	A s - C混土。	P-33	0.26 × 0.26	0.20	不整形	-	A s - B混土。
P-15	0.29 × 0.25	0.20	不整形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-34	0.69 × 0.55	0.19/0.08	不整形	-	A s - B混土。
P-16	0.26 × 0.25	0.13	不整形	-	A s - C・H r - FA混土。	P-35	(0.30) × 0.28	0.45	不整形	-	A s - B混土。
P-17	0.30 × 0.28	0.21	不整形	-	A s - B混土。	P-36	0.25 × 0.20	0.16	不整形	-	A s - B混土。
P-18	0.22 × 0.21	0.38	円形	-	A s - B混土。	P-37	0.23 × 0.23	0.16	円形	-	A s - B混土。
P-19	0.27 × 0.24	0.76	不整形	-	A s - B混土。	P-38	(0.17) × 0.14	0.09	楕円形	-	A s - B混土。
						P-39	(0.40) × (0.29)	0.29	不整形	-	A s - B混土。
						P-40	(0.70) × (0.22)	0.12	不整形	-	A s - B混土。
						P-41	0.24 × 0.23	0.29	円形	-	A s - B混土。
						P-42	0.38 × 0.29	0.42	楕円形	-	A s - B混土。
						P-43	0.26 × 0.26	0.29	円形	-	A s - B混土。
						P-44	0.24 × 0.20	0.21	楕円形	-	A s - B混土。

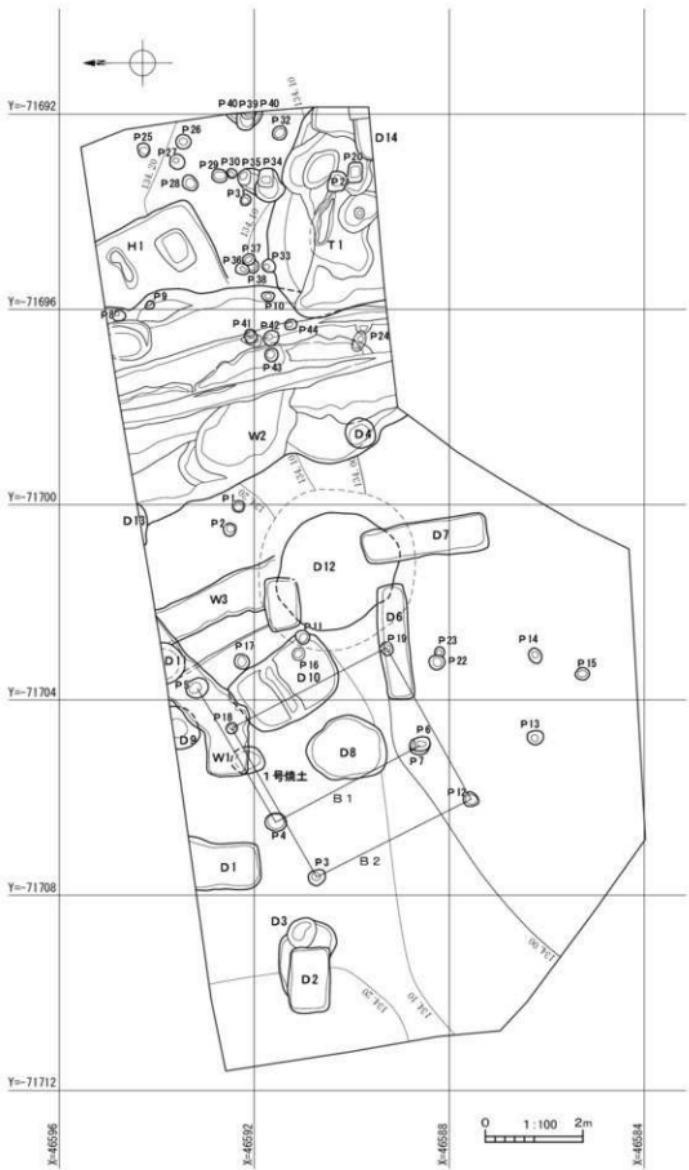


Fig. 5 全体図

2. 壁穴建物跡

H-1号壁穴建物跡は調査区北東側で検出されており、プラン南西側は重複するW-2 b号溝に切られている。カマドは東壁中央寄りに付設されているが、遺存状態が悪く右袖の一部を検出したのみである。南東コーナー付近からは貯蔵穴が確認され、埋設土の中～下層から土師器（甕・高环）が出土し、さらに、その東側の床面付近からは3個体の土師器甕の破片がそれぞれ出土している。床面は地山面をそのまま利用しており概ね平坦である。床面からは硬面・主柱穴・壁周溝などの明確な痕跡は検出されなかった。帰属時期については、出土遺物から6世紀前半と想定される。

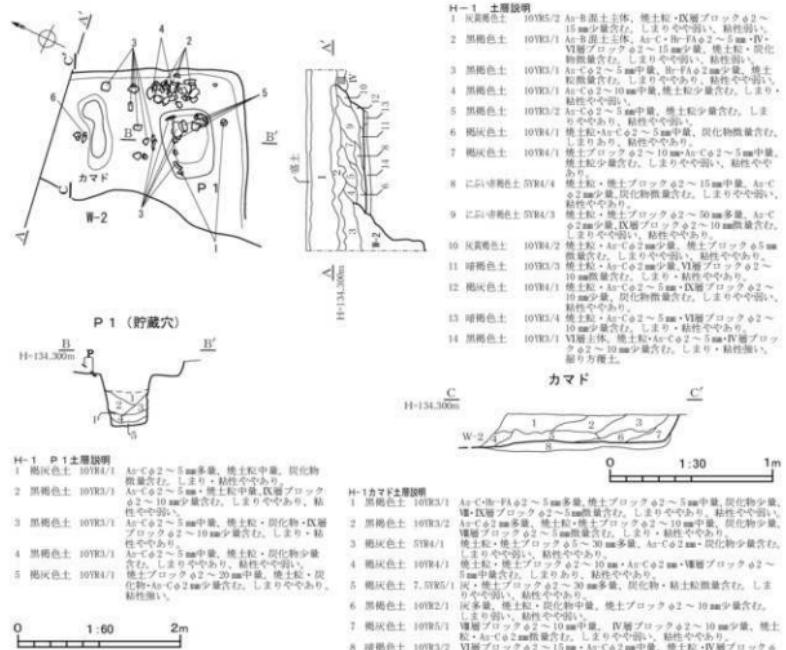


Fig. 6 H-1号壁穴建物跡

Tab. 8 H-1号壁穴建物跡出土遺物観察表

番号	種類	基底(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 高环	底径 10.2	①焼成焰、赤褐色、白色粒・透明粒 ②未燃燒、白色粒、白色粒 ③焼成焰・輪部 A/5	外面：脚部～脚部ミガキ。 内面：脚部ナデ、輪部ヨコナデ。	
2	土師器 甕	口径 18.2	①焼成焰 ②にぶい褐色 ③黑色粒、白色粒、チャート ④口縁部～胴部 5/6	外面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。	
3	土師器 甕	口径 17.0 底径 6.4 高さ 29.1	①焼成焰 ②にぶい黄褐色 ③透明粒、黑色粒、白色粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ、指頭丸。 内面：口縁部ヨコナデ、脚部～底部ナデ。	
4	土師器 甕	口径 15.2 底径 8.0 高さ 27.9	①焼成焰 ②にぶい黄褐色 ③角窓石、白色粒、透明粒 ④ほぼ完形	外面：口縁部ヨコナデ、脚部～ケメ後ナデ、底部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。	
5	土師器 甕	口径 14.6	①焼成焰 ②にぶい黄褐色 ③角窓石、白色粒、赤褐色粒 ④口縁部～胴部上半 5/6	外面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。 内面：口縁部ヨコナデ、脚部ナデ。	
6	粘土塊	長さ 5.6 幅 6.0 厚さ 1.7 重さ 35.4 g	一面はナデ調整をし、平坦である。		

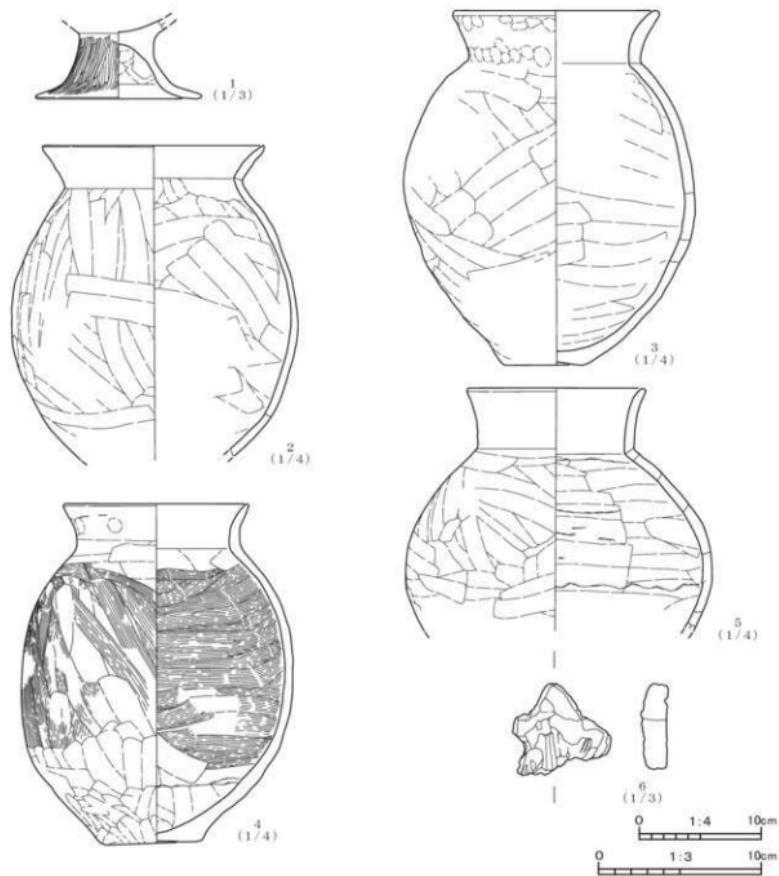


Fig. 7 H-1号堅穴建物跡出土遺物

3. 挖立柱建物跡

B-1・2号掘立柱建物跡は柱間1間の側柱建物跡と推測される。なお、B-1号掘立柱建物跡は柱穴が3基のみであるが、検出されなかった柱穴については、D-12号土坑に埋されている可能性が考えられる。各柱穴の埋没土中には、As-CやHr-Faの軽石が混入していることから古墳時代～古代に帰属すると思われる。さらに、埋没状態を観察すると、B-1号掘立柱建物跡の柱穴3基およびB-2号掘立柱建物跡の柱穴2基は、柱材が抜き取られた後に人為的に埋め戻されていた。なお、B-1・2号掘立柱建物跡の周辺には、D-9・10号土坑やW-3号溝が検出されており、埋没土や軸方位などが類似していることから関連性が窺われる。

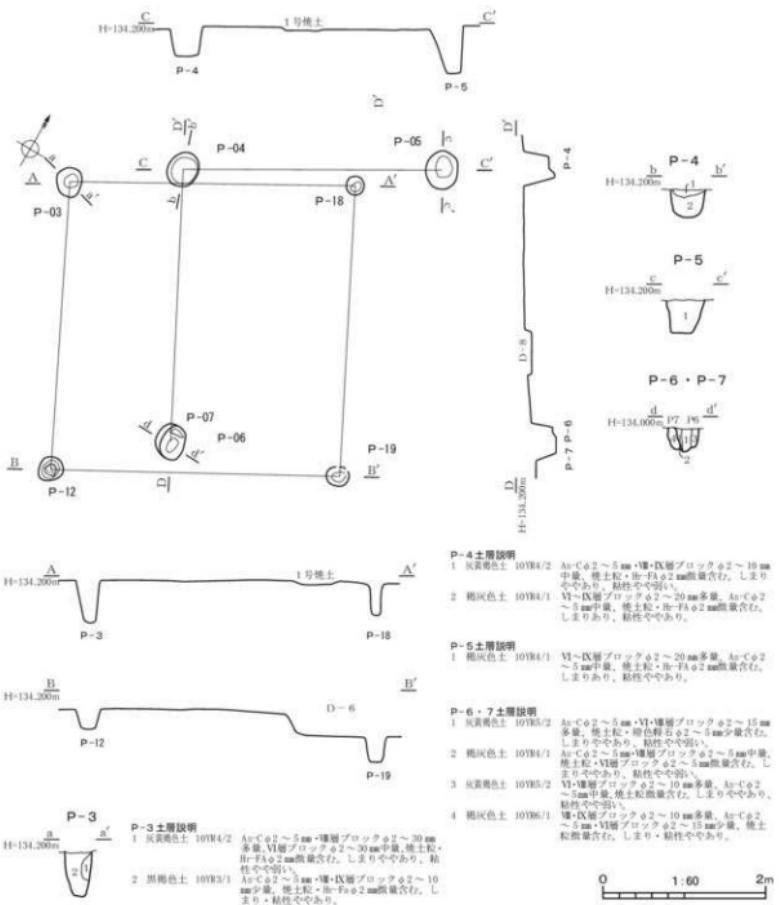


Fig. 8 B-1号掘立柱建物跡・B-2号掘立柱建物跡

4. 土坑

土坑は14基検出された。D-1～7・11～14号土坑の11基は、平面形態が長方形状を呈するものや東西方向および南北方向に長軸をもつものが多く、埋没土にはA s-A軽石やA s-B軽石が混入している。いずれの土坑も出土遺物が少なく詳細な時期を示すことは難しいが、D-1・2号土坑からは近世陶磁器の破片が出土し、D-12号土坑からは13世紀前半と考えられる青磁碗の破片が1点出土している。上記の11基の時期は、埋没土や出土遺物などから中世～近世に帰属するものと判断される。D-8・9・10号土坑の3基については、平面形態に共通性は認められないものの埋没土中にA s-CやHr-F Aの軽石が混入し、そのうちD-8・10

号土坑は人為了的に埋め戻されていた。D-9号土坑は、規模や埋没状態がH-1号堅穴建物跡の貯蔵穴と近似しており、埋没土の中～下層からは6世紀前半と想定される土器器（壺・甕）が出土している。D-8～10号土坑は、B-1・2号掘立柱建物跡との位置関係から堅穴建物跡に関連する付帯施設（貯蔵穴・床下土坑）の可能性が考えられる。

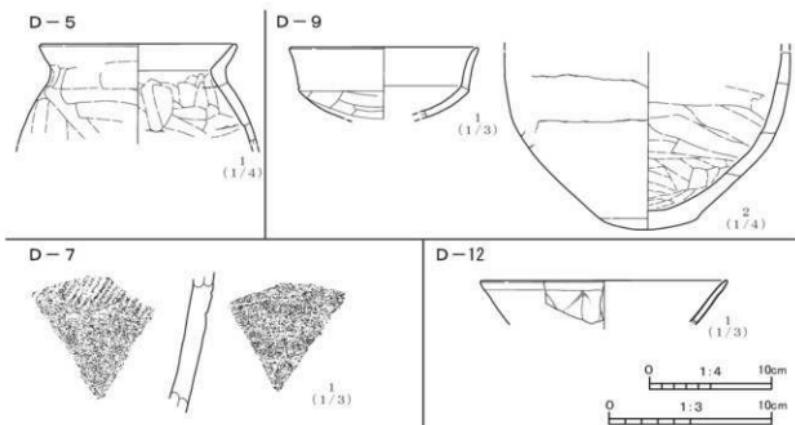


Fig. 9 土坑出土遺物

Tab. 9 土坑出土遺物観察表

D-5号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器器 甕	口径(16.2)	①焼化壘 ②にぶい橙 ③角閃石・白色粒・透明粒 ④口縁部～胴部上位1/5	外面：口縁部ヨコナヂ。胴部ナヂ。 内面：口縁部ヨコナヂ。胴部ナヂ。	

D-7号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	焼締陶器 甕		①堅微 ②暗灰黄 ③白色粒・黒色粒 ④胴部片	外面：輪軸整形。格子状の押印。 内面：輪軸整形。	常滑。

D-9号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土器器 甕	口径(11.6)	①焼化壘 ②相 ③白色粒・黒色粒 ④口縁部～体部1/6	外面：口縁部ヨコナヂ。体部ケズリ。 内面：口縁部ヨコナヂ。体部ナヂ。	
2	土器器 甕	底径 8.1	①焼化壘 ②浅黄 ③白色粒・黒色粒・赤褐色粒 ④胴部下半～底部	外面：胴部～底部器面荒れ、厚底。 内面：胴部～底部ナヂ。	

D-12号土坑

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	青磁 瓶	口径(15.2)	①堅微 ②オリーブ灰 ③口縁部～体部片	外面：蓮弁文。	

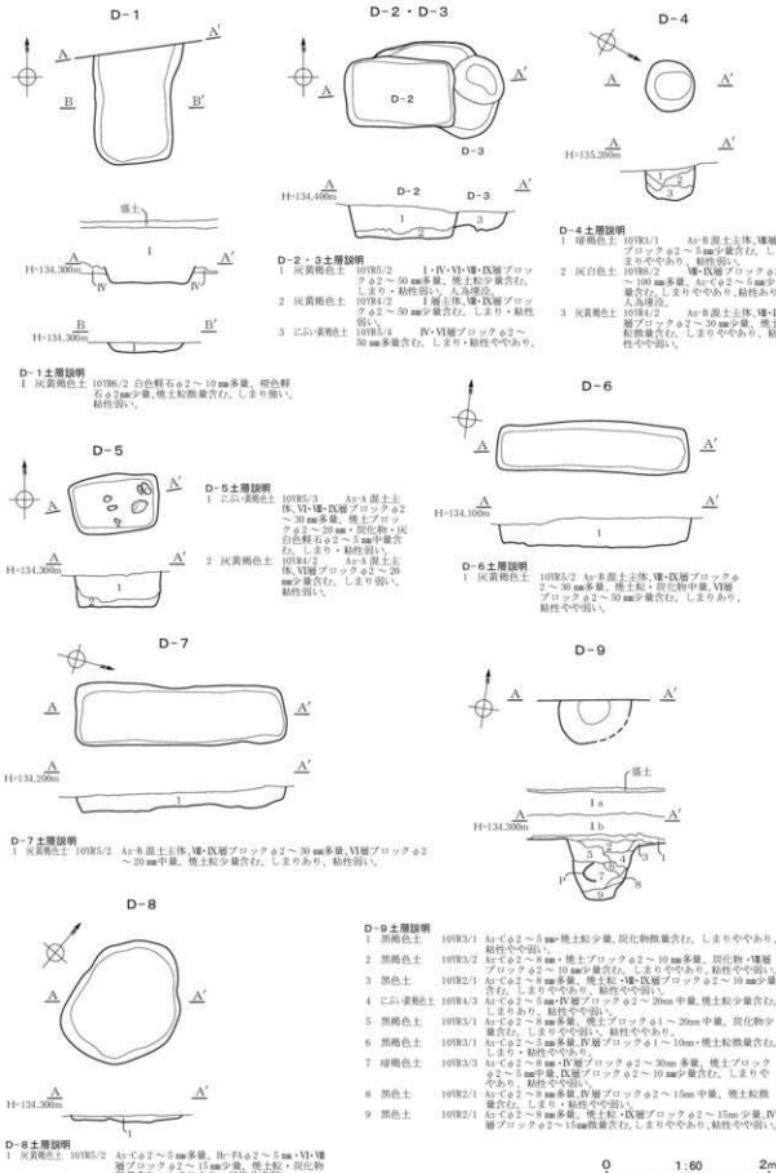


Fig. 10 土坑 (1)

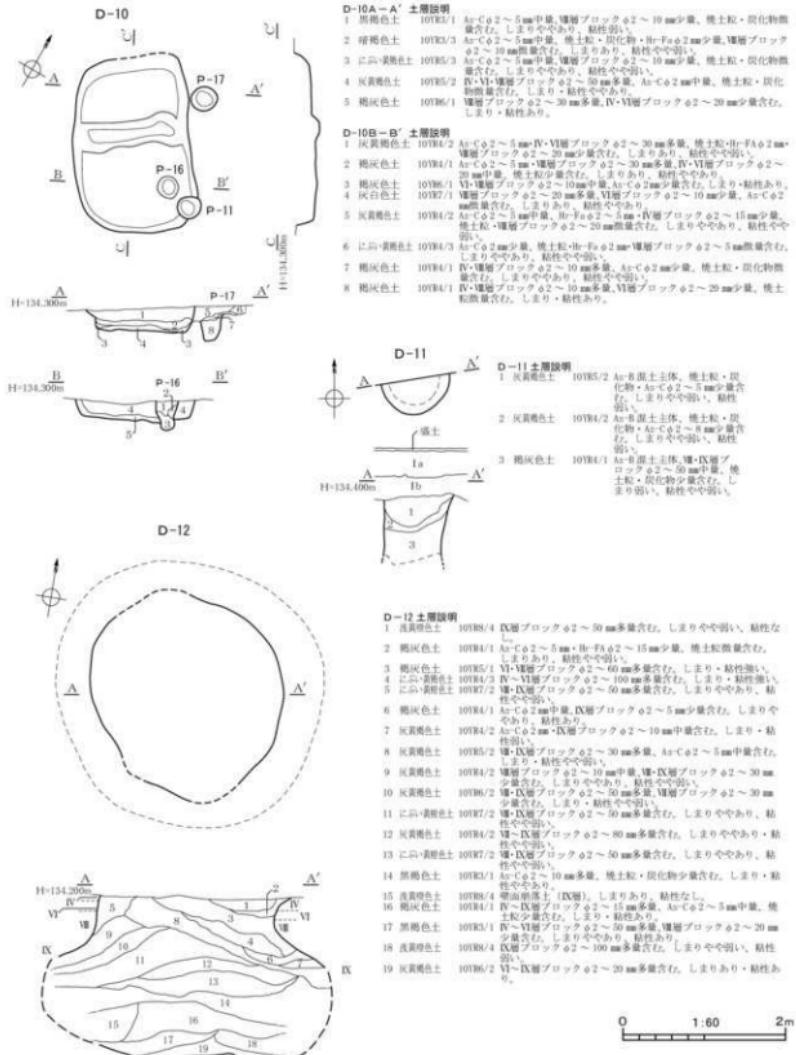


Fig. 11 土坑 (2)

5. 壑穴状遺構

T-1号壗穴状遺構は調査区南東端で検出されており、プラン西侧は重複するW-2b号溝上～中層を削平している。プラン東側および南側が調査区外に延びていることから、平面形態や遺構の性格については不明な点が多い。底面には多数の凹凸が認められており、部分的に土坑状あるいは溝状の掘り込みも見受けられる。出土遺物はW-2b号溝からの流れ込みとみられる土師器片が少量出土しているに過ぎず、帰属時期を明確に示すような遺物は出土していない。埋没土はW-2a号溝と類似していることから、平安時代以降に帰属する可能性が考えられる。

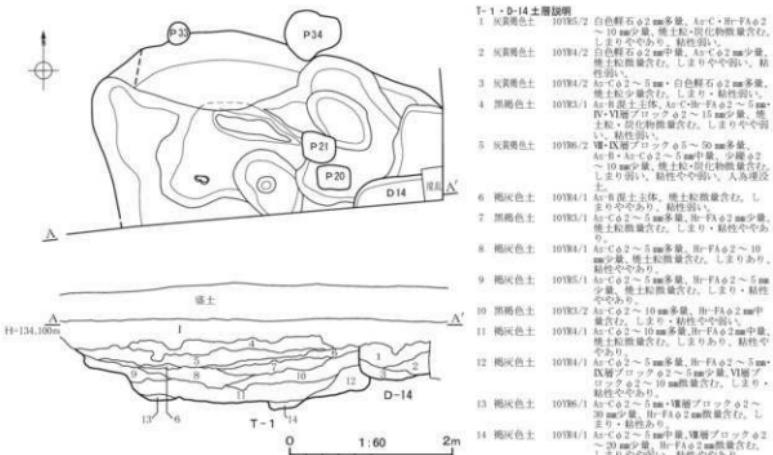


Fig. 12 T-1号壗穴状遺構



Fig. 13 T-1号壗穴状遺構出土遺物

Tab. 10 T-1号壗穴状遺構出土遺物観察表

番号	器種	法量 (cm)	①焼成 ②色調 ③胎土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 壺	口径 (6.4)	①還元焰 ②灰白 ③灰色粒・白色粒 ④体部下位～底部 1/6	外面：輪轍整形。底部右側斜切り。 内面：輪轍整形。	

6. 溝

3条の溝が検出された。W-1号溝は長方形を呈する土坑が2～3基重複しているものと思われ、埋没土が表土と近似していることから、近世以降に帰属するとみられる。W-2号溝は南北方向に延伸する規模の大きい溝である。調査区両端の断面観察の結果、2回以上の掘り直しが行われており、最も新しい溝をW-2a、その前段階をW-2bとした。なお、新旧については断面による把握であり、平面的には下層においてのみ埋没土の

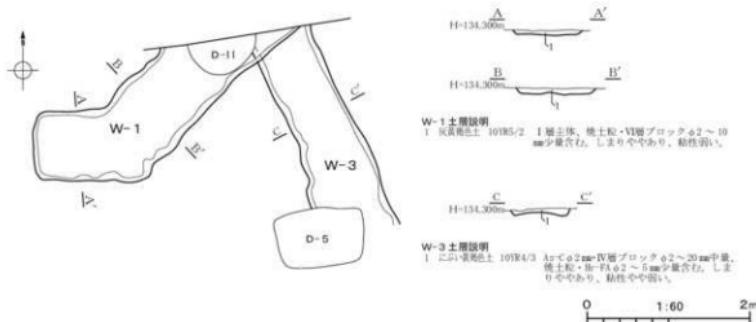


Fig. 14 W-1号溝・W-2号溝

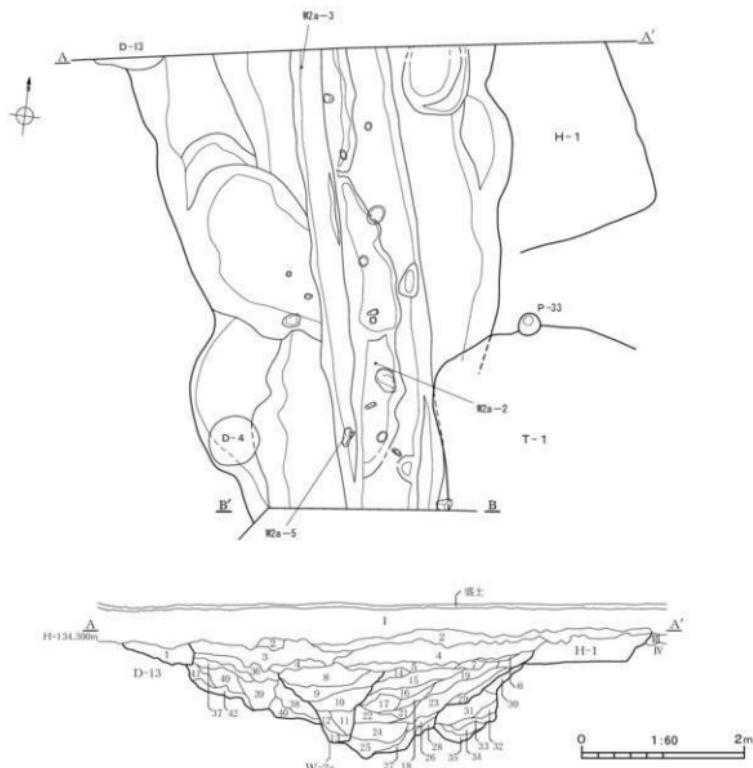
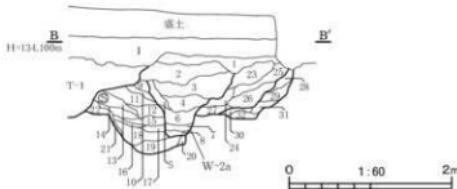


Fig. 15 W-2号溝 (1)



W-2-D-13 土層説明 (A-A')

- 1 黒褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 2 黒褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。しまりやや強。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 3 黄褐色土
107R4/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。しまりやややややや。粘性やや弱い。
- 4 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。しまりやややややや。粘性やや弱い。
- 5 暗褐色土
107R4/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややややや。粘性やや弱い。
- 6 黑褐色土
107R4/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややややや。粘性やや弱い。
- 7 暗褐色土
107R4/1 VI 黃IX層ブロック 6 2 ~ 30 mm 多量。H-Fa2 ~ 2 ~ 5 mm 順合少順合む。しまりややややや。粘性やや弱い。
- 8 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりややややや。粘性やや弱い。
- 9 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 10 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 11 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 12 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 13 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 14 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 15 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 16 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 17 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 18 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 19 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 20 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 21 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 22 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 23 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性やや弱い。
- 24 黄褐色土
107R6/2 60mm, 灰色・ルト多量。As-C 2 ~ 2 ~ 5 mm 多量む。しまりやややや。粘性なし。ラミナ状の堆積。
- 25 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 26 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 27 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 28 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 29 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 30 黑褐色土
107R3/1 VI 黃IX層ブロック 6 2 ~ 30 mm 多量。H-Fa2 ~ 2 ~ 10 mm 中量。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 31 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 32 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。

W-2 土層説明 (B-B')

- 1 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 2 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 3 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 4 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 5 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 6 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 7 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 8 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 9 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 10 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 11 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 12 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 13 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 14 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやや弱い。粘性弱い。
- 15 黄褐色土
107R6/2 60mm, 灰色・ルト多量。As-C 2 ~ 2 ~ 5 mm 多量む。しまりやややや。粘性なし。ラミナ状の堆積。
- 16 黑褐色土
107R3/1 VI 黃IX層ブロック 6 2 ~ 30 mm 多量。H-Fa2 ~ 2 ~ 10 mm 中量。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 17 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 18 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 19 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 20 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 21 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 22 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 23 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 24 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 25 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 26 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 27 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 28 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 29 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 30 黑褐色土
107R3/1 VI 黃IX層ブロック 6 2 ~ 30 mm 多量。H-Fa2 ~ 2 ~ 10 mm 中量。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 31 黑褐色土
107R3/1 As-C 2 ~ 5 mm 中層。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 15 mm 順合む。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。
- 32 黑褐色土
107R3/1 VI 黃IX層ブロック 6 2 ~ 30 mm 多量。H-Fa2 ~ 2 ~ 10 mm 中量。他土と H-Fa2 ~ 2 ~ 30 mm 順合む。しまりやややや。粘性弱い。

Fig. 16 W-2 号構 (2)

差異が明瞭に認められた。W-2a号構の底面には浅い崖み穴が多く認められており、工具痕の可能性を考えられる。埋没状態は自然堆積と判断され、常態的な流水を示すような痕跡は確認されなかつた。また、底面における北端・南端の標高に違いはみられなかつたことから、区画を目的とする構であったと思われる。W-2b号構の底面には、流水に浸食されたとみられる凹窓(窓穴)が顕著であり、一部では浅い溝状に抉り込まれている範囲が認められた。埋没土の下層には、砂粒・シルトを基調とするラミナ状堆積、中層にはノロ状の褐灰色粘土質

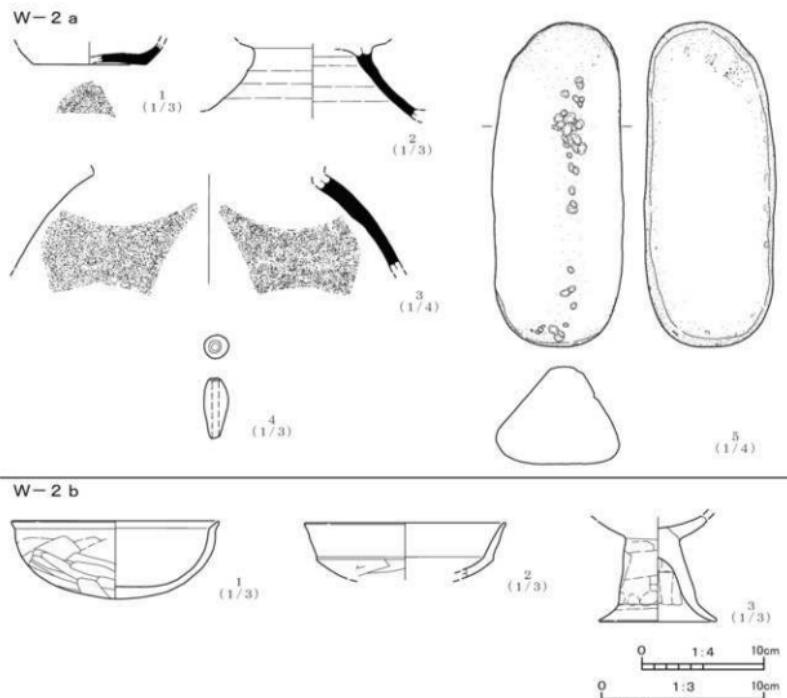


Fig. 17 W-2号溝出土遺物

Tab. 11 W-2号溝出土遺物観察表

W-2 a号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	須恵器 環	底径(7.0)	①焼元端 ②灰 ③白色粒 ④体色下位～底部片	外面：体部輪郭整形、底面右回転系切り。 内面：輪郭整形。	
2	須恵器 高台碗	口径 10.1 底径 3.4 器高 5.7	①焼元端 ②灰黄 ③黒色鉱物・チャート・石英 ④脚部 1/5	外面：輪郭整形、高台貼付。 内面：輪郭整形。ヨコナデ。	
3	須恵器 甕	—	①焼元端 ②にぶい黄橙 ③白色粒・赤色粒・チャート ④口縁～底部 3/4	外面：並行叩き。 内面：ナデ、当て具痕。	
4	土製品 土壁	長さ 3.7 幅 1.5 厚さ 1.5 重さ 7.3 g.	ナデ。		
5	石製品 砥石	長さ 26.6 幅 10.8 厚さ 8.0 重さ 3615.5 g.	安山岩製。3面使用。砥面は使用により平滑し、表面の一部に敲打痕あり。	安山岩製。3面使用。砥面は使用により平滑し、表面の一部に敲打痕あり。	

W-2 b号溝

番号	器種	法量(cm)	①焼成 ②色調 ③始土 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	土師器 环	口径(12.8) 器高 4.8	①焼元端 ②橙 ③透明粒・黒色鉱物・白色粒 ④2/5	外面：口縁部ヨコナデ。体部～底部ケズリ。 内面：口縁部～底部ナデ。	
2	土師器 环	口径(12.4)	①焼元端 ②橙 ③白色粒 ④口縁部～体部片	外面：口縁部ヨコナデ。体部ケズリ。 内面：口縁部～体部ナデ。	
3	土師器 高环	底径(7.2)	①焼化端 ②にぶい橙 ③赤褐色・黒色鉱物・白色粒 ④脚部下位～底部	外面：環部～脚部ナデ。環部ヨコナデ。 内面：環部～脚部ナデ。環部～底部ナデ。	

が堆積していることから、ある程度埋没が進むまでの期間は常態的な流水があったものと判断される。底面の標高をみると北端から南端へ10cm以上傾斜しており、灌漑用水路として機能していた可能性が高い。遺物については、W-2-a号溝から弥生土器（甕）、土師器（壺・高壺・甕・台付甕・瓶）、須恵器（甕・壺）、灰釉陶器、土製品（土錐）、石器（砥石・磨石）などが出土し、W-2-b号溝からは土師器（壺・高壺・甕・瓶）、須恵器（甕・碗・壺）が出土している。W-3号溝は、埋没土に基本層序第IV層・VI層をブロック状に多く混入する浅い溝である。時期については、遺物が出土していないため不明である。本溝西側のB-1・2号掘立柱建物跡やD-10号土坑などと軸方位が類似していることから関連性が窺われる。

7. ピット

ピットは44基検出された。埋没土の観察からA s-Bを混入するもの、A s-C・H r-F Aを混入するものの大別され、A s-Bを含むものが大半を占める。埋没土別に掘立柱建物跡を構成する柱穴の把握に努めたが、B-1・2号掘立柱建物跡を検出したのみである。

8. 焼土

1号焼土範囲は、W-1号溝に北側半分を削平される状態で検出された。埋没状態を観察すると、その範囲で被熱を受けたのではなく、被熱により形成された焼土がブロック状に粉碎された後に埋められたと推測される。埋没土中にA s-Bが含まれていないことから、12世紀初頭以前に帰属すると思われる。

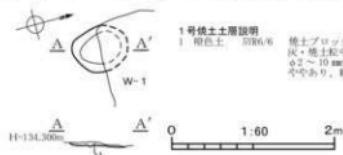


Fig. 18 1号焼土範囲

9. 遺構外出土遺物

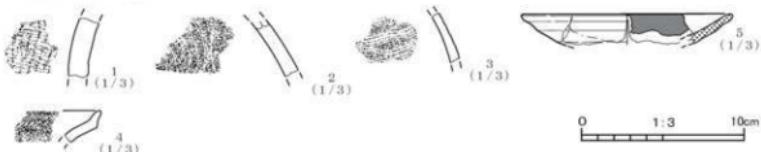


Fig. 19 遺構外出土遺物

Tab. 12 遺構外出土遺物観察表

番号	器種	法量(cm)	①施成 ②色調 ③紹士 ④残存	成・整形技法の特徴	備考
1	圓文土器 深鉢	-	①施化粧 ②にぶい黄褐色 ③赤褐色粒・黑色鉱物・白色 粒 ④胸部片	外面：胸部L.R.縦文。 内面：胸部ナデ。	
2	弥生土器 壺	-	①施化粧 ②黒褐色 ③角閃石・白色粒 ④胸部片	外面：胸部同心円文。 内面：胸部ナデ。	
3	弥生土器 甕	-	①施化粧 ②にぶい褐 ③黑色鉱物・白色粒 ④胸部片	外面：胸部横彫文。 内面：胸部ナデ。	
4	土師器 甕	-	①施化粧 ②にぶい黄褐色 ③黑色粒・白色粒・チャート ④口縁部	外面：口縁部ナデ後側突文。 内面：口縁部ナデ。	S字縫A型。
5	灰釉陶器 皿	口径(14.2)	①選元焼 ②オリーブ黄 ③白色粒 ④口縁部・体部片	外面：輪縁整形。 内面：輪縁整形。	釉薬濁け掛 け。

VI　まとめ

本遺跡では縄文時代・弥生時代・古墳時代前～後期・古代・中近世と考えられる遺構および遺物が検出されている。ただし、縄文時代・弥生時代・古墳時代前期に関しては、遺構は検出されておらず土器片が少量出土しているのみであるが、本遺跡周辺に該期の遺構が存在する可能性を示唆している。以下では、本遺跡から検出された大型の溝であるW-2号溝について若干の補足を行いたいとしたい。

今回の調査で検出されたW-2号溝は、南北方向に主軸をもつ規模の大きな溝である。調査区両壁際における断面観察の結果、少なくとも2回以上の掘り直しが確認されている。そのうち、古い段階であるW-2b号溝は、先述したように埋没状態などから灌漑用水路として機能していた可能性が考えられる。出土遺物については、北東側で重複しているH-1号堅穴建物跡あるいは上流域の遺構からの紛れ込みと思われる6世紀前半の土師器片（坏・高坏・甕・瓶）が大半を占めるが、古墳時代後期の土師器（坏）や須恵器（甕）の破片も少量出土している。灌漑用水路として機能していた時期については、重複する遺構との新旧関係や出土遺物などから古墳時代後期～平安時代と推測される。

一方、新しい段階であるW-2a号溝は、規模がやや小さく薬研状に掘り込まれている。調査区両壁際の断面観察によると、掘り直しが行われた時点でW-2b号溝は機能しておらず大半は埋まっていたようである。底面の標高差および埋没土中に流水の痕跡を示す痕跡が認められないことから、W-2b号溝とは異なる機能を果たしていたことが推測される。出土遺物の主体は、W-2b号溝からの紛れ込みであるが、時期を示す遺物として9～10世紀と想定される須恵器（坏・甕・壺）の破片が少量出土している。本溝が機能していた時期については、W-2b号溝との新旧関係および出土遺物などから平安時代と想定される。なお、埋没土にはA-s-B一次堆積が確認されていないことから、12世紀初頭には溝としての機能を失い完全に埋没していたとみられる。

ところで、本遺跡周辺における午王頭川の右岸では、これまで七日市遺跡・高井桃ノ木遺跡・見柳東遺跡・総社植野北開土遺跡などが調査され、灌漑用水路と考えられる溝跡がそれぞれ検出されている。それらの帰属時期に関しては、いずれも古代に機能していたとの報告がなされていることから、W-2b号溝とは同時期に機能していないかったようである。

いずれにしても、今回の調査では検出された範囲が僅かであり、W-2aおよびW-2b号溝がどのように展開していくのか現段階では不明であり、本遺跡周辺における古墳時代後期～古代の午王頭川右岸で形成されている灌漑用水路網のあり方に関しては、今後の調査成果に期待するところである。

引用・参考文献

- 群馬県史編さん委員会 1989 『群馬県史 通史編1 原始古代1』 群馬県
日沖剛史 ほか 『元總社蒼海遺跡群(37)』 前橋市教育委員会
南田法正 ほか 2011 『大渡道場遺跡』 前橋市教育委員会
伊藤順一 ほか 2013 『元總社蒼海遺跡群(39)』 前橋市教育委員会
麻生敏隆 ほか 1998 『下東西清水上遺跡』 諸群馬県埋蔵文化財調査事業団
能登 健 ほか 2006 「関東地方の初期S字甕出土遺跡の立地について」 『研究紀要24』 諸群馬県埋蔵文化財調査事業団

写 真 図 版



調査区全景 遠方に棗名山を望む



調査区全景 上が北



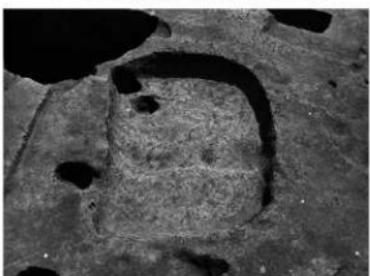
H-1号竖穴建物跡 遺物出土状態 (南西から)



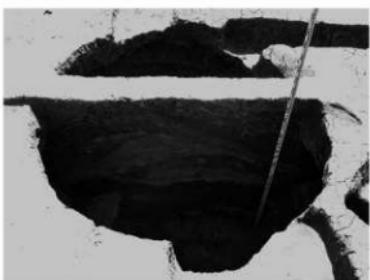
T-1号竪穴状遺構 完掘状態 (東から)



D-6号土坑 完掘状態 (西から)



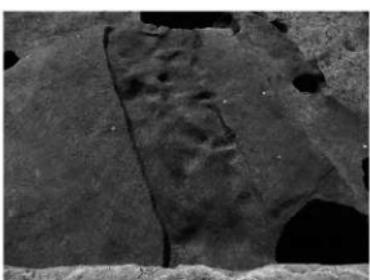
D-10号土坑 完掘状態 (北西から)



D-12号土坑 セクション (北から)



W-2号溝 遺物出土状態 (北から)



W-3号溝 完掘状態 (北から)



調査区北西端 標準堆積土層 (北東から)

H-1号竖穴建筑物出土遗物



H1住-1



H1住-2



H1住-3



H1住-4



H1住-5

土坑出土遗物



D5土-1



D7土-1



D12土-1



D9土-1



D9土-2

P L. 4

T—1号竖穴状道沟出土遗物



T 1型-1

溝跡出土遗物



W 2 a 溝-1



W 2 a 溝-2



W 2 a 溝-3



W 2 a 溝-4



W 2 a 溝-5

—



W 2 b 溝-1



W 2 b 溝-2



W 2 b 溝-3

道沟外出土遗物



外-1



外-2



外-3



外-4



外-5

抄 錄

フリガナ	ソウジャマチムカイハタイセキナンバーイチ
書名	総社町向畠遺跡No.1
副書名	宅地造成工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	藤坂和延・土井道昭
編集機関	有限会社 毛野考古学研究所
発行機関	前橋市教育委員会
発行機関所在地	〒371-0018 群馬県前橋市総社町3-11-4 Tel. 027-280-6511
発行年月日	西暦 2015年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号	(日本測地系)				
総社町向畠 遺跡 No. 1	群馬県前橋市総社 町植野 594、597	10201	0115	36° 139°	25' 02' 02" 02"	20150309 ~ 20150327	150	宅地造成工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
総社町向畠 遺跡No.1	集落	古墳 奈良 平安 中世	堅穴建物跡 溝 土坑 ピット 堅穴状遺構 焼土範囲	1軒 3条 14基 44基 1基 1ヶ所 弥生土器 土師器 須恵器 灰釉陶器 土製品 鐵滓 剝片 青磁 陶器	古墳時代後期 の集落を確認

総社町向畠遺跡No.1
宅地造成工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27年7月25日印刷
平成27年7月31日発行

編 集／有限会社 毛野考古学研究所
発 行／前橋市教育委員会
前橋市総社町3-11-4
TEL 027-280-6511
印 刷／朝日印刷工業株式会社
